

令和 元年度 獨協埼玉中学校 自己評価シート

| | |
|--------|----------------------------------|
| 目指す学校像 | 豊かな感性、健康な心と体を育み、自ら考え判断できる生徒を育てる。 |
|--------|----------------------------------|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1. 中学3年間で身に着けるべき学習目標の達成に向けて教育内容の充実を図る。 2. SNSの利用に関して細かな指導を行い、同時に保護者への協力を依頼する。 3. 規律ある生活態度と豊かな人間性、社会性を培う教育活動を推進する。 |
|------|---|

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | | 学 校 関 係 者 評 価 | |
|-------------|---|--|--|--|--|-----|--|--|
| 年 度 目 標 | | | | | 年 度 評 価 (3月31日 現在) | | 実 施 日 令 和 2年 6月 13日 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | 朝学習、読書・新聞の時間、小テスト、補習など基礎学力の育成に向けて様々な取り組みをしているが、中学から高校への移行期の中だるみの傾向を改善する必要がある。 (継続) | <ul style="list-style-type: none"> 朝学習の内容小テストの実施とその効果 補習により学習項目の他に何を教えるか 興味を持ち自ら目標設定ができていないか 検定試験の目標設定の明確化 | <ul style="list-style-type: none"> 朝学習、小テストの実施方法、内容の吟味と日常学習の定着を促す。 補習において教科担当者や担任だけでなく、補助指導員として上級生を活用し身近な存在から日常学習の大切さを伝える。 希望者に対して、授業の枠を外して、興味関心を抱くような課題提供を行う。 学年、教科ごとに検定試験の目標を明確にする | <ul style="list-style-type: none"> 効果的な内容と、小テストに対するフォロー 学習内容だけではなく、取り組む姿勢に対しても生徒と接点を持つことができたか。 より積極的に何かに取り組もうとする気持ちを育てることができたか。 検定試験の目標は明確になっているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 小テストの事前予告の時期を早め、準備をして受験するよう促し一定の効果は得られたが、取り組みに対する生徒間の差は解消できなかった。 上級生による補助は勉強に向かう姿勢を問はず意味である程度効果的であった。 提供された課題に興味を持ち、楽しみながら取り組むとともに通常の授業における積極性に変化があるなどの効果が見られた。 設定目標に向けて努力する生徒が少しずつ増えている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 継続して生徒が主体的に学習に向かう環境を生み出す努力が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> 補助指導員として上級生を活用することは、上級生も人に教えることによって新たな気づき生まれ、非常に有意義だと思います。 |
| 2 | 携帯電話の使用法やSNSによるトラブルが後を絶たない。公共の場での使用方法に対する指導も継続して必要である。 (継続) | <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の使用実態の把握 SNSの利用法に対する指導状況とその効果の把握 | <ul style="list-style-type: none"> 学校内での携帯電話に関するルールの徹底と指導。 家庭での携帯電話の使用に関して保護者の協力を依頼。 携帯電話教室を開催し、主にSNSの利用について講義を行い考える。 | <ul style="list-style-type: none"> SNSによるトラブルは減少したか。 校内・公共の場・家庭内における携帯電話利用のルールは守られているか。 携帯電話教室による効果の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話教室の実施、各家庭への協力依頼、HRにおける日常の指導等を行っているが、SNSに関する様々な事象は引き続き起きている。 | C | <ul style="list-style-type: none"> この問題の根深さは深刻であり、さらなる指導の継続を行う必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話はすっかりなくなりはならないものとなりました。依存しないで、携帯電話やSNSに“使われない”、きちんと“使う”ことが出来るように家庭でも指導する必要があります。多感なこの時期の子どもにとって難しい問題ですが、指導を継続することが大切と考えます。 |
| 3 | ICT化へ向けて、委員会の設置をするなど準備活動を始めているが、本校がどのような方針で進めていくのかさらに検討が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ICTの導入に向けて具体的な進展状況の把握 | <ul style="list-style-type: none"> 情報センター・ICT委員会をより充実した形で活用し、ICTを利用してどのような教育を行っていくのか、設備はどの程度まで整えるか、土台となるプラットフォームをどうするか等の調査と検討。 プロジェクターの設置。 | <ul style="list-style-type: none"> ICTの導入に向けて具体的な進展がみられるか。 社会の動きと比較して、本校の持つ特色を反映した目標設定になっているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 全普通教室にプロジェクターを設置することで各教科の授業に変化が見られたことで、ICT化のメリットの一部を確認することができた。 次年度中の校内Wi-Fi化や、本格的なICT環境の導入に向けて具体的な方向付けが整ってきた。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 校内全域でのWi-Fi化実施。 生徒の端末をどうするかを検討。 | <ul style="list-style-type: none"> ICT環境整備を早期に整え、先生方に今よりも時間的余裕ができるようになれば、子供たちと向き合う時間が増え、さらに良い方向に向かうと思います。今後は楽しみです。 |